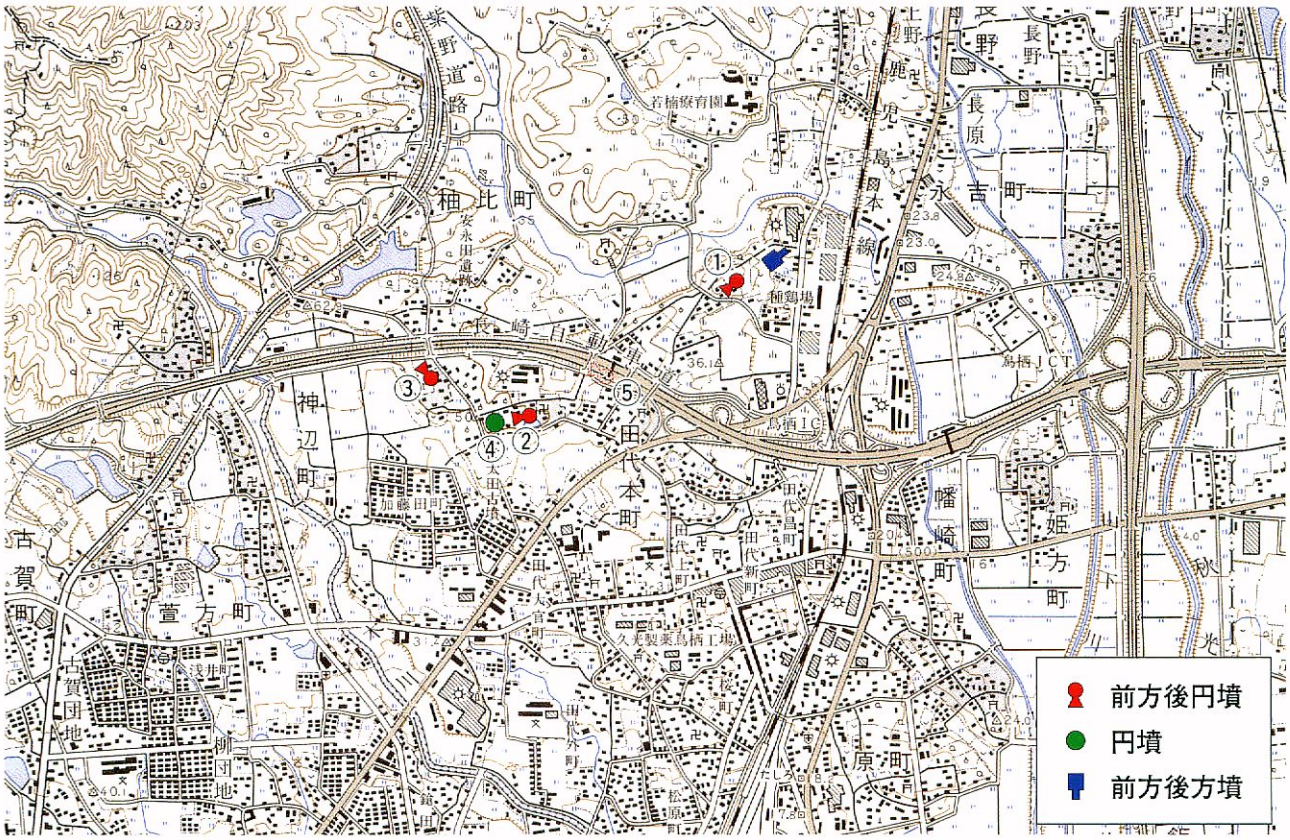
とすの文化財解説シート　　柚比遺跡群シリーズNo.13

6世紀代の大型古墳

鳥栖市教育委員会



古墳の分布図

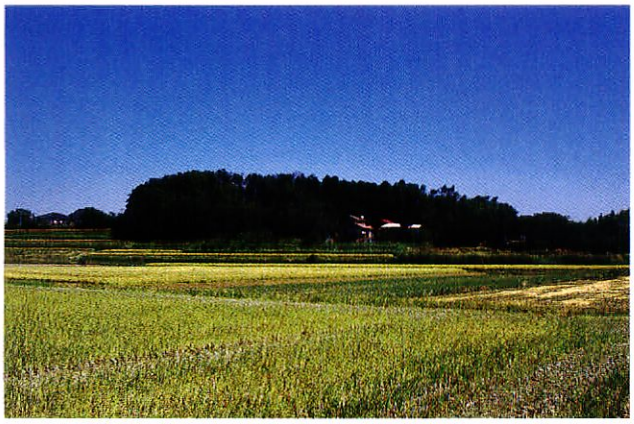
鳥栖市域において5世紀までは大型古墳はみられませんでしたが、6世紀になるとその状況が一変します。大木川左岸（東側）の中位段丘で、柚比町荻野から田代本町に至る丘陵上には、東から①剣塚古墳（全長約80m）・②岡寺古墳（全長約70m）・③庚申堂塚古墳（全長約60m）の3基の前方後円墳と、彩色壁画系の装飾古墳として知られる④田代太田古墳（直径42m）の大規模古墳が点在しています。ほかにも庚申堂塚古墳につぐ規模と推測される⑤東田古墳がありましたが、長崎自動車道の建設に伴い破壊され、現在は残っていません。

これらの古墳が成立した背景には筑紫国造磐井の乱(527年)の影響が考えられ、乱後、九州に物部氏の部民が設定された際、物部と物部氏に関係のある鳥取部（鳥飼部）が基肄郡内に認められることから、その母体となる有力豪族の墓ではないかとおもわれます。

築造年代をみると、剣塚古墳が6世紀前半と古く、続いて6世紀中頃に東田古墳、庚申堂塚古墳、岡寺古墳が造られ、最後に6世紀後半の田代太田古墳という流れになります。

またこれら大型古墳の周辺では、梅坂古墳（柚比町）、鳥栖市域では大木川右岸（西側）では塩塚古墳（養父町）、稲塚古墳（古賀町）など直径30m前後の中型古墳が単独で位置しています。

剣塚古墳



庚申堂塚古墳

剣塚古墳は６世紀前半（約1400年前）に造られたとおもわれ、大きさが全長80m、後円部径45m、高さ7.5m、前方部の幅60mの前方後円墳で、墳丘は二段に造られています（二段築成）。周囲にめぐらされた溝は幅５ｍあり、その規模は佐賀県下でも有数のものです。墳丘上は石で敷き固められる（葺石）とともに、埴輪が立てならべられていたことが知られています。死者を葬った石室は入り口が南にある横穴式の石室で、石室に通じる墓道から須恵器、挂甲（鎧の一種）の破片が出土しています。この当時、筑紫国造磐井（福岡県八女市一帯に本拠をおいた九州一の大豪族）の大乱が起き、その影響は筑・豊・肥（福岡・佐賀・大分・熊本）の広い範囲に及ぶものでした。この古墳に葬られた人は、その大乱にかかわりのあった有力な豪族とおもわれます。

庚申堂塚古墳はほぼ南北に主軸を持ち、後円部が南に位置します。現在、古墳の頂上には「庚申尊天」と刻まれた石碑があり、庚申堂塚という名称はおそらくこの石碑に由来するものでしょう。古墳は全長約60m、前方部最大幅48m、後円部径約32m、高さ約５ｍを測ります。墳丘は二段に築かれ、葺石が前方部と西側面によく残っており、過去に多くの円筒埴輪片が採集されていたことから、葺石に覆われ、円筒埴輪に立て並べてあったとおもわれます。また東側と西側に壕の一部と凹地が現在でも認められることから周溝をめぐらしていたと考えられます。

岡寺古墳も前方後円墳です。しかし、現在では農業用池などでかなり削られ、周りからは前方後円墳の形をみることはできません。この古墳からは九州では珍しい巫女・武人・馬・鶏・猪・鳥・盾・馬具などのさまざまな形象埴輪が出土しています。剣塚古墳・庚申堂塚古墳については、昭和50年２月24日に県指定史跡となっています。

岡寺古墳遺物出土状況

岡寺古墳出土の埴輪（復元）